

1. 基本情報

- (1) 国名：カンボジア王国
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：プノンペン特別市、カンダール州、プレイベン州及びスヴァイリエン州
- (3) 案件名：プノンペン―バベット高規格幹線道路整備計画
(Phnom Penh – Bavet Expressway Development Project)
- (4) 事業の要約：

本事業は、カンボジアの首都プノンペンとベトナム最大の都市ホーチミンシティを繋ぐ道路（全長約 200km）のうち、カンボジア側（プノンペン―バベット間）において高規格幹線道路を整備することにより、対象地域における輸送能力の増強及び輸送効率の改善を図るもの。

2. 事業の背景と必要性

- (1) 当該国における道路セクターの開発の現状・課題及び本事業の位置付け

カンボジアはタイ、ラオス及びベトナムに挟まれ、地域的な物流の中継基地となることが期待されている。中でも首都プノンペンとベトナム国境バベットを繋ぐ国道 1 号線は、プノンペンとタイ国境ポイペトを繋ぐ国道 5 号線とともにカンボジアの基幹道路であるだけでなく、アジアハイウェイ 1 号線及び南部経済回廊の一部である。国道 1 号線の交通量は今後 10 年間のうちに、バベット近郊で 2.5 倍、プノンペン近郊で 4.5 倍に増えると予測されており、メコン地域の産業大動脈として機能することが期待されている。これまで我が国は、無償資金協力により国道 1 号線の整備（プノンペン―ネアックルン間）やネアックルン橋の建設を行ってきたが、2015 年の ASEAN 統合、また急速な経済発展により、2003 年「国道 1 号線改修計画調査」の交通需要予測（2005 年：8,856 pcu/日、2010 年：12,993 pcu/日、2015 年：16,672 pcu/日）の水準と比較すると、2023 年にはプノンペン―ネアックルン間において 37,000 pcu/日以上と、既存の 2 車線道路では対応しきれないほどの交通量の増大が予測されている（2014 年 JICA 調査）。他方、用地取得や住民移転の観点から既存道路の拡幅は極めて困難であるため、特にプノンペン―ネアックルン間において、別線形・4 車線の自動車専用道路（＝高規格幹線道路）の整備が必要とされている。なお高速道路建設の奨励については、カンボジア政府「国家戦略開発計画 2014-2018 年（2014 年 8 月現在承認手続き中）」でも明記されている。

- (2) 道路セクターに対する我が国の協力方針等と本事業の位置付け

対カンボジア王国国別援助方針における重点分野として「経済基盤の強化」が定められており、本事業を含む当該セクターへの支援はこの方針に合致する。JICA はこれまで、開発調査「カンボジア全国道路網調査」（2006 年）を実施し、無償資金協力で「国道 1 号線改修計画（1～4 期）」（2005-2016 年）、「ネアックルン橋梁建設計画」（2010-2015 年）を、有償資金協力で「国道 5 号線改修事業（バタンバン-シソポン間）」（2013-2019 年）、「国道 5 号線改修事業（プレッククダム-スレアマアム間）(I)」（2014-2020 年）

を実施。また、技術協力で「建設の品質管理強化プロジェクト」（2009-2012 年）、「住民移転のための環境社会配慮能力強化プロジェクト」（2010-2012 年）を実施し、インフラ整備及び維持管理能力の強化に努めている。

（3）他の援助機関の対応

- ・アジア開発銀行：「道路資産管理強化事業」（2008-2013 年）、「北西州道路改修事業」（2011-2013 年）
- ・世界銀行：「州・地方インフラ改修事業」（2004-2010 年）、「道路資産管理強化事業」（2008-2013 年）
- ・中国：「プレックダム橋建設事業」（2007-2010 年）、「国道 8 号線建設事業」（2007-2012 年）

（4）本事業を実施する意義

本事業は、我が国、JICA の重点分野とも合致しており、またカンボジアの国家戦略開発計画でも高速道路建設の奨励が明記されていることから、同国の開発課題及び開発政策に合致する。以上の理由により、本事業の実施を支援する必要性及び妥当性は高い。

3. 事業概要

（1）事業概要

① 事業の目的

本事業は、首都プノンペンとベトナム最大の都市ホーチミンシティを繋ぐ道路のうち、プノンペンとベトナム国境バベット間に高規格幹線道路を整備することにより、輸送能力の増強と物流の円滑化を図り、もってカンボジアの経済発展の促進に寄与するもの。

② 事業内容

- ・高規格幹線道路の建設（プノンペン－バベット間、総延長 約 140km）

（注：複数フェーズに分け、段階的整備を検討。また一部区間のみとなる可能性も含め検討。）

- ・既存の国道 1 号線の道路改修（ネアックルン－バベット間、総延長 約 100km）
- ・メコン川を渡る長大橋の建設 等

③ 他の JICA 事業との連携

無償資金協力「国道 1 号線改修計画（1 期～4 期）」（2005-2016 年）や、有償資金協力「国道 5 号線改修事業（バットンバン－シソポン間）」（2013-2019 年）、「国道 5 号線改修事業（プレックダム－スレアマム間（I）」（2014-2020 年）と併せて道路を整備することで、メコン地域内の連結性強化を図る。また、今後、技術協力「道路・橋梁の維持管理能力強化プロジェクト」（2014 年 8 月現在詳細計画を策定中）により、実施機関の維持管理能力向上を図る予定である。

（2）事業実施体制

- ① 借入人：カンボジア王国政府（The Royal Government of Cambodia）

- ② 事業実施機関／実施体制

公共事業運輸省（Ministry of Public Works and Transport : MPWT）

③ 他機関との連携・役割分担：協力準備調査にて確認。

④ 運営／維持管理体制：MPWT

(3) 環境社会配慮

① カテゴリ分類 ■A □B □C □FI

② カテゴリ分類の根拠：

本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010 年 4 月公布）に掲げる道路セクター、及び影響を及ぼしやすい特性に該当するため。

(4) 横断的事項：協力準備調査にて確認。

(5) その他特記事項：協力準備調査にて確認。

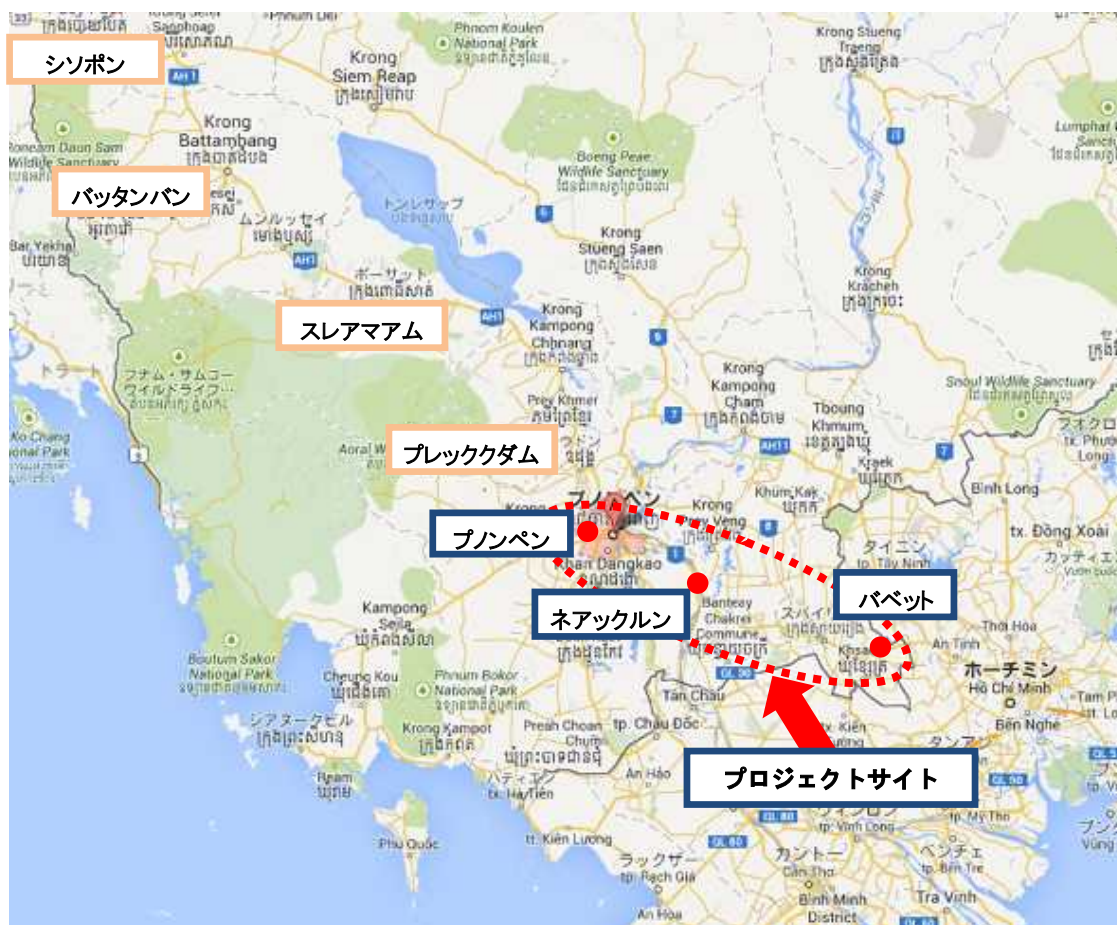
4. 過去の類似案件の教訓と本事業への適用

モロッコの「高速道路建設事業」等では、当初予測を超える用地取得・住民移転が発生したため地域分断が問題となり、横断施設等の建設を追加で行っており、事業準備段階で住民移転に係る十分な情報開示・住民協議や、地域分断を起こさないための横断構造物の設計が必要という教訓を得ている。本事業では、高規格幹線道を整備することで用地取得/住民移転を必要最小限に抑える工夫を行うほか、国道 5 号線改修事業における住民協議等の知見をいかして、事業準備段階において被影響住民との協議を丁寧に行い、また、地域分断が最小限で済むような設計を行う予定。

以 上

[別添資料] プノンペンーバベット高規格幹線道路整備事業 地図

プノンペンーバベット高規格幹線道路整備事業 地図



<拡大図>

